

## I 被災者の生活の回復に関する実感

生活の回復度及び3ヶ月間の進捗状況についての回答区分により、自由記載欄の記載内容を取りまとめると以下のとおりであった。

区分	職業・所属等	年齢別	地域	自由記載（理由）
回復した	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	以前と全く同じではないかもしれないが、以前同様仕事をし、普通に（日常生活に困らない）生活ができていると感じます。
やや回復した	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店とかは少しずつ建ってきてはいるが津波対策が全然進んでない。</li> <li>・津波にあった地域の住める場所が、まだ曖昧。</li> </ul>
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失業者の雇用もややよくなってきていると思う。</li> <li>・三陸鉄道が回復した。</li> </ul>
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	住環境及び雇用の回復はかなり進んでいると思われるが、経済回復はまだ十分ではないと思われる事から業種によって格差はあると思う。 しかしながら、国・県からの支援事業や被災地支援のためのプログラムが組み立てられている事から、経済回復とともに、雇用の回復の早期が期待できる。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	仮設住宅も比較的便利な場所に立っているのが買物等そんなに不便を感じないように見受けられます。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	市内の求人数が増えている。周囲で、仕事がなく困っている人は見受けられない。 一方、家族を震災で亡くした方や、震災が原因の精神的病の人の回復には、今後も時間がかかるように感じる。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	高台に住宅の建設が少しずつ進み、住みは始めている。経済的な理由で住宅建設は難しい人は多いが、これからは住宅の建設が進むと思う。 仮設商店街が整備され、以前の商店街のようなにぎわいが戻りつつある。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	私が住んでいる仮設住宅の住民の皆さんの中に御自宅を再建しようとする方が何人か出てきました。 被災前の生活に戻す事は不可能でしょうが、それに近づこうという思いが伝わってきます。私も自宅を再建しようと思っています。その反面やはりこの先の生活に不安を感じている人もいらっしゃるもので、その方々の不安を取りのぞく事が当面の課題だと思っています。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	生活をする事には、周りのショッピングセンターの完全な回復をしてからは非常に生活がしやすくなったと個人的にも感じています。また周りの人の心の余裕を見て取れます。やや進んでいるに回答しましたが、進んでいるにかぎりなく近いと思っています。 金銭面においては、各々状況が違いますので、それによっても大きく左右されると思います。仮設に入らない被災者とかは苦しい状況がありますので、全ての人に平等は難しいですが、声を掛ける事だけでも見えてくる部分があると思います。実際に現場でもその差について不満が多いのが現実です。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	鉄道も復旧し、生活が戻ってきてるように感じる

やや回復した	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	仮設住宅の住民が以前より物事を自分から進んで活発に動くようになった。協力してみんなで何かをやろうとする意識が高まった。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	生活力のある人は、県外に移住したり、自力で収入を得る人が増えてきている。その反面、無策な援助により、勤労意欲を消失してしまった人もいる。これまでの多くの復興は日本人の勤勉さによるものが大きかったと感じる。回復していこうとする人、そうでない人との格差が生まれている。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	3年ぶりにやっとわかめの収穫があり、漁業関係者に活気が出て、次は間もなくこんぶが始まる。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	買物などの面から見ると買物専用のバスが出たり、移動販売の車が来たり、町には仮設の店舗などが次々と出来、住民が地元で買物をする所が出来たと喜んでる声を聞くようになった。 建築可能な土地での建築も始まったり、それぞれが今後の生活について一歩踏み出しているように見えるが、それはほんの一部で大半の人は集団移転先の形が見えなく、特に老人の方々は、日々の生きがいが見えないように見える。仮設住宅に入ったより避難所に居た方が精神的に良かったと口にするお年寄の声を聞く。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	表面上の日常生活、例えば一日の生活リズム、営業、身体的な点などは、かなり回復してきていると思うが、精神的な点では立直りの遅い人等、必ずしも回復しているとはいえない人もおり、質問に対する答えには、どの程度の範囲で判断すべきか迷う点もある。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	1 新宅に引っ越した人がいる。 2 仕事に就いた人が増えてる。 3 早朝まで駐車場が満車になっているが、昼間は車が半分になっている。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	移動販売車が定期に来てくれ、野菜、魚類が購入が楽になった。仮設住宅設備への不満等が少なくなった。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	丁度お花見の季節でもあり、桜の下には、仲間同志で手作りのお寿司、から揚げ、お煮染め等いっぱい持参しにぎやかに笑い声いっぱい元気になりました。 翌日私達も色々作って持ち寄ってお花見しました。 昨年はお花見どころではなかったね・・・と話しております。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	復旧は進んでいると思う。 でも復興は思うように進んでいるように感じない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	岩手県の中でも大きな感覚の差が出てきていると実感する。 特に県中部と沿岸部との感覚のズレ。 「公」は被災地最優先の姿勢を崩さないべきである。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	・仮設住宅でとりあえず、ひと冬を越し、さてこれからというところではないか。日々の生活はできているが、将来を考えると不安を抱えての毎日だと思う。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	被災した事業所もほぼ再開し以前の事業所で働き出したり、新規の事業による雇用もあり、求職者の動きが落ち着いたように感じる。

やや回復した	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	農業者で皆さんの支援があって震災の前より半分は復興に向かっていますが、近所の被災者の生活を見ますと回復にはまだまだ進んでない様に思えます。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	仕事を選ばなければ仕事はある。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	震災時よりはやや進んでいるが、いまだ仮設住宅に住んでいる方が多くいる。水田の復旧工事が9割ぐらい終了しているが、塩害の状況は今後どのように出るかは不安である。村の復興計画が示されているが、多くの問題点が出るのではないか？
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	被災した家の建て替えも進み、又、水田の復旧も100%近く進み今年度は作付けする。原木椎茸、畜産は放射線セシウムや風評被害があり、価格の底価が以前続いており、生活が大変苦しくなっている。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	引き続き復旧の進捗状況は2極化しているほか、業種間格差も拡大している。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	私の地域は、今年が5年祭の年となっています。しかし、震災により今回は見送りとなったのですが、小規模でもいいからやった方が良いという意見が出てきました。こうした声が出てきたということは生活が少しずつ回復しつつあるということではないかと思っております。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	1 住環境 住宅の新規着工は遅々として進んでこなかったが、3月11日の1年を過ぎてから急に動き出してきた。 住宅ローンの申し込みや相談が明らかに増加している。 2 雇用 依然として建設業や運送業を中心として人手不足は解消されていない。飲食店やスーパーマーケット、仮設商店街のオープンが進み、パート従業員の確保が困難になってきた。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	・ 日常の生活は以前とあまり変わらない。 ・ 仮設住宅に住んでいる人の情報が伝わらないので、そこは良く分からない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	コールセンターができたこと、多くの雇用が生まれたと思う。 共同水産加工場が現在建設されている。完成すれば水産業がさらに活気づくと思う。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	ガレキの量が少しずつではあるが少なくなっている。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	新年度になったこともあり、就職し仕事を始めた人も周囲に多くいる。住環境に関しては、ほとんど進んでいないように思う。仮設から引っ越し予定がある人の話を全く聞いたことがない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	仮設住宅に入れたこと、工場が再建されていることなど。 JR八戸線と三陸鉄道の再開
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	漁協関連施設もプレハブとはいっても整えられてきており、4月はワカメ漁も盛んに行われていた。関わりのある運送トラックも頻繁に往来する姿も見かける。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	山林の土地開発(土地)がところどころ目につくようになり住宅地確保に向けて進んでいるのかと思っている。 しかし、学校用地確保がなかなか進んでいないこともある。

やや回復した	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	住宅事情はまだまだの感はあるが、仕事の状況や仮設の生活等々から普段の生活は震災当時の劣悪な状況からは脱しつつあると感じる。 (通勤、乗物等は特に平常に戻りつつある)
どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	10歳代	沿岸南部	ライフラインは普通に使えるけど、仮設に住んでいる以上は現状は3ヶ月で進んでいない。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	・新しい移転先がはっきりしないため、不安を感じている方が多い。 ・水産加工場が復旧し、少数ながら新規雇用があった。昨年塩害で作付しなかった水田に田植えの準備をしている姿を見て、少し前進していると思う。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	仮設住宅に入居後の住宅の再建で、今までの土地がいくらで買い上げられ、そして一日でもはやく家を再建したいが一向に進まず、いつもあせっている。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	それぞれ仕事や状況によって差があるので、どちらとも言えないに○をつけました。 仕事を失って、まだ仕事をできない方もいれば再就職できて頑張っている人もいます。 仮設住宅に住みながら何とか仕事もできている人も増えてきていますが、家族を失って意欲をなくしている人もいます。個人個人によって違うと思います。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	・仮設住宅に住んで居る方々でも従前の仕事に就いている人、期間雇用で働いている人、無職の人などで温度差がある。 ・高齢者の方も隣近所とも交わらず、仮設住宅からあまり出ない人もあり、生活状況が判らない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	仮設住宅内での生活サイクルリズムが安定着しつつあるように見えますが3方位に別れてきました。 ①被災した現実を現実として捉えながらも前向きに生活している人 ②被災した現実を認めつつも3月11日以前の生活に望郷を抱き足踏み状態 ③すべてに諦め活力の無い人 去る4/3～4/4の低気圧時には強風により風除室サッシ引戸が、4ヶ所吹き飛びましたが、幸いに怪我人は出ませんでした。 又、5/3～5/4の大雨おいては、31棟が床下浸水となり、一時9世帯15人を町中央公民館に避難させる事態となりました。

どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	<p>全国、そして世界の各ボランティアから、物心両面にわたる多大の支援をいただいていることに衷心より感謝している次第である。</p> <p>ただ、いただいているだけでは復興にならない。せめて自分達で協働で出来ること。これを目指して、私の居住区内の仮設住宅談話室内外装整備の計画を立て、これの認可を頂いた。</p> <p>① 出入り口ポーチ屋根かけ（風除室？）作り ② 履物収納棚 ③ 室内棚吊り等、 資材提供を受け、住民手作りの協働作業はコミュニティ作りにも大いに効果があった。</p> <p>5月上旬の記録的豪雨が各地に被害をもたらした。当町においても一部仮設住宅に被害あり、基礎部分土砂崩れで12棟に被害があった。</p> <p>私の住居区の仮設団地も、団地造成方面大小あわせて20箇所ほどの崩落があった。（補修応急工事済み）</p>
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸北部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移転候補地の取得が進んでいない様である。</li> <li>・ 町からの説明(情報)がなく不安を感じている。</li> <li>・ 浸水した用地を買い取ってもらえない様なので移転する場合の費用等が不安である。</li> </ul>
	教育・福祉施設関連	20歳代	沿岸南部	<p>いまだに高台移転の話がすすまず、足踏み状態である。仮設住宅での生活は慣れてきてはいるものの、やはり住みづらさは感じる。地域では、基礎の解体が行われてはいるが、殺風景で、まだ恐さは感じてしまう。</p> <p>雇用もなかなかないような話が聞こえてきている。しかし、色々な資格が安くとれるようにしてくれているというの聞こえてきている。それはとても良いなと思う。</p>
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	<p>漁業中心の村であり、市場は改修されたが、作業小屋の改修等は進んでいない状況のため。</p>
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 買いたいものや欲しいものは遠くへ行かず買えるので不便さは感じなくなった。</li> <li>・ 私の母が住んでいる仮設は、高台にあり、雨が降ったりしても浸水することなく安全だが、やはり冬はとても寒かった。</li> <li>・ これからは、仮設を出てからの住まいを心配するので早急に住宅や補助金についてを決めて欲しい。</li> </ul>
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	<p>自分の両親は津波で被災した自宅を直して4月中旬に仮設住宅から自宅へ戻りましたが、近所の方々はまだ仮設から戻れない状態です。</p>
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	<p>定職に就けず転々としている。収入が減り、生活もまだまだ厳しいとの声を聞く。節約、節約の毎日。最近では三陸鉄道の運行の再開は唯一の明るい話題でした。</p>
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	<p>変化はあまり感じられない。</p>
	教育・福祉施設関連	60歳代	沿岸南部	<p>経済力がある人は回復してきているが、経済力がない人はまだ回復していないように感じる。どちらかに分かれているようだ。</p>

あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	<p>リフォームを行い自宅へ戻る方は増えてはきたが、あくまでも自己責任のようなので今後盛り土やかさ上げを行った際に問題が生じるのではないかと思う。</p> <p>また、仮設住宅も建設から1年が経ち最近では仮設周辺に殺虫剤や防虫剤をまいている所を目にする。</p> <p>湿気や雨により腐蝕等していないか点検して回るなどフォローすることが長びくであろう仮設生活への安心感につながるのではないかと思う。</p>
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	<p>生活環境は、風呂の追いだきができるようにするなど少し改善はみられるが、その他騒音や台所の狭さなどは変化するわけではなく、皆さんが、ただ慣れているだけだと思います。</p> <p>生活の回復の進み具合は、求人は多く出ているものの、期限付や復興関係の土木の仕事、介護の仕事が多く、資格を持たない方、体力の無い方（特に40代以上の女性の方々）の仕事が少ない状況にあると感じます。</p> <p>生活も落ち着き、仕事もなく、時間があると住まいの心配、今後の経済的な生活の心配ばかりしてしまうようです。</p> <p>独居老人は相変わらず食事もパンなど簡単なもので済ませているようで、健康の心配があります。定期的な料理教室などで部屋から出て、皆と過ごす時間も必要と思います。</p> <p>これからは、皆と一緒に時を過ごし、気持ちを共有する場を多く設け、少しでも不安を一人で抱え込むことがないようにする取り組みも必要だと思います。</p>
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	<p>働く場所があるけれど、アルバイトや臨時職員で将来何年も続けるには不安がある職業かもしれない。</p> <p>給料が良く、ずっと安心して続けられる大手会社の工場があればいいと思います。仕事があれば人が帰ってくると思います。</p>
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	<p>震災から1年経ち個人商店が開業を始めた印象がありますが、被災者個人で考えるとまだまだ回復したとは感じられません。</p>
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	<p>仮設住宅後の住家に関して、具体的に進んでいる形がまったく見えない。職場に関しては、補助・助成と個々の努力で、多少は回復して来た様子はあるが、緊急雇用に頼っている部分も大きく、その先が問題というか、時間がまだまだかかると思う。</p>
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	<p>被災者の住宅の回復度は、被災前に比べたら…。「回復」は数ヶ月の間ではほとんど回復していない…。高台移転等、住居に対する回復は進んでいない。ただ、道路やガレキの処理は少しずつ進んでいると感じる。</p>
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	<p>前回のアンケートの時とほぼ変わらない。</p> <p>現在住んでいる仮設住宅又近くの仮設住宅は、中高年が多いように思う。そのためか、仕事に就くことが難しいのではないかと思う。</p> <p>心のケアが必要なのでは、と思うような人が身近におり、生活の回復どころではないのでは。</p>

あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	住宅の再建は殆んど、進んでいる様には思えない。 義援金等はあるが、住宅再建にはやはり金銭的に無理があると思う。 私の場合、借家でしたが、何をしても大家さんを通す事になるので少しずつ自分で直して住んでいるのが現状です。引越の事を考えても精神的に負担で行動に至らず現在もそのままの借家に住んでいます。 県営、市営住宅がもっとあればと思います。 市からも聞きとり調査ももっとあっても良いのではと思います。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	4月25日移転に伴う説明会が有り、被災土地の買取代金、移転先、団地購入費等の説明があり一歩進んだと思います。 要望は、低所得ですけれども軒家を建てたいと考えていますが、これからのローン等を考えると苦痛に感じます。移転先土地をもう少し安くしたりしてほしいです。(移転先の方が坪単価が高い) 公営住宅も家賃が高くて困る。 ※岩手県内市町村で、ある程度統一してほしいです。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	3ヶ月前と生活はなんら変わっていない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	特に住環境の再建が遅れている。移転先が確定できず公営住宅も実現が遅れている。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	余裕のある人は自力再建する事が出来るがそうでない人達は公営住宅が唯一の頼みであり早期の完成を望んでいる。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	集落全体が被災した集落の漁村は海をはなれる漁業も多く、元の様な漁村とは成らない感がある。 漁業収入も津波前の3分の1位はあるのだろうか？ 浜のお母さん達も観光業のパートもなく、がれき処理の日雇いも切れ仮設住宅の表情は暗い。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	商店街の品揃えは以前と同じように回復し買物で不便は無くなり良くなって、実感としてはやや進んでいると思うが、雇用の問題が解決されていないのでトータル的にはあまり進んでいないと判断する。 製造業、水産業の早い復興を願います。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	・町並みのガレキの集積はかなり進んではいるが、分別作業に手間がかかっている。復興のスピードにかなりの影響が出ている。 ・被災者の高台移転の進捗のスピードが遅い。 ・漁業(養殖漁業)は、生産者の努力で復旧はかなりのスピードで進んでいるが、国からの助成制度(協業化)の縛りが強く、復旧作業での出役等での感情のぶつかり合いでコミュニティが崩壊状態になっており、今後の営漁活動に疑問が残る。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	仮設住宅内での交流も始まり、生活環境も整い比較的落ち着いた生活をしています。但し、周囲は高齢者が多く、食料品の店舗が遠く、不便を感じている様です。
産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	家の屋根の修理等は進んでいるみたいでブルーシート等は少なくなってきた。 仮設住宅に入っている人達は集団で移転する話はあると聞くが、場所さえもいまだに決まらない状況にあるらしい。 被災した農地も端(山側)の方から作付してきているのが見られる。	

あまり回復していない	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸南部	仮設住宅での生活が今現在も続いているため、新築で住宅を建てるための手続きの簡素化が必要なのではないか。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	(1) 復興計画にもとづく具体的な進捗は見られず、前回同様回復しているとは言い難い。 (2) ①仮設住宅の居心地の悪さから、賃料を負担しても貸家やアパートへ転居したいとの意向を持っている方もおり、場所にもよるが貸家、アパートの需要は高い。こうしたことを背景に貸家の修復、新築の動きが見られたほか、住宅新築や住宅建設に向けた土地売買、中古住宅の売買などの動きが以前より見られるようになってきた。アパートの新規入居の賃料が震災前より17%値上げとなった先があった。 ②飲食店を中心に仮設店舗等による営業再開が増えており、食事の選択肢が広がった。 ③雇用面では前回同様、就職に向けた動きは鈍い。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	仮設住宅の住民が、どこに住宅を再建するか分からない。移転地もまだ決まっていない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	3ヶ月前と何かが変わったという実感はない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	・ 漁業をしていますが、養殖の施設復旧はある程度進んだが、船の無い人がまだまだ多く先行きが不透明である。 ・ 生活の主が海に直結しているので、仕事が落ち着くまで生活も落ち着かないと思われる。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	被災者の方々の中には、自ら家を再建し新たな生活を始めている方も見られます。ただ、そう出来るのは一部の方々で、回復の差があると思います。 仮設に入居したという点ではひとまず落ち着いたと言えるでしょうが、これからどうなるかと考えた時に、回復したとは言えないのではないのでしょうか。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	・ 仮設住宅について、住宅を建築する土地がない（決まっていない）ことや公営住宅の建築がこれからであることから、今後の住宅再建のメドが立っていない人がほとんどである。 ・ 生活面は、これまで復旧、復興した企業が少なかったことから、ほとんどの人は義援金、保険金、失業手当で生活していたと思う。ただし、再建した企業が雇用募集を行っても集まらないと言っており、いろいろ問題はあると思う。 また、今後水産加工業、製造業で再建するところも多く、被災者の生活の回復は進んでいくと思われる。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	被災直後に比べれば、家の修繕をする人や、新築する人も見受けられ、また、仮設住宅から自宅へ移り住む人が増えている。しかし、被災前と比べれば、まだまだ、以前のような活気が町の中心部（浸水地域）には無いようです。 ガレキは少なくなり、建物の解体撤去は大分進んでいるが、新たな建築物はなし、以前のような仕事に就くことも出来ず、将来（特に、経済的問題）的に、多くの不安を抱えている人達の姿が目につきます。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	・ 仮設店舗が数件出来ているが、不便である。 ・ 復旧が遅いため、仮設住宅に居る年数が長期になる不安がでてきた。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	年令に比例し若い方は回復しつつあるが高齢者は仮設入居時と変わっておらず逆に孤独化が進んでいる。

あまり回復していない	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	仮設住宅は概ね充足しているが、職の無い人達がまだ大勢いる。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	仮設住宅は、Uターン希望者増加により入居待ちが続いており、民間アパートも建築場所が見当たらず、建設できずにいる。戻りたくても受け入れ態勢が不十分で、人口流出が加速する要因にもなっている。被災しなかった人達が地域を支えている感じがしている。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	・あまり進んでいない感じです。 ・ガレキは少なくなったようだが、仮設住宅から出る方が少ない。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	被災により、仮設住宅に入居はできましたが、仕事は失ってしまい失業者が多いです。今は家賃などがかかりませんが、それでも収入が少なくなっておりますので、できるだけ切り詰めての生活です。被災者が（前のように）雇用されてこそ、生活の回復となるのではないのでしょうか。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	この項目に関しては、2月と同じ回答になります。私どもの町では、被害の影響を強く受けている人たちと、受けていない人たちが、混在しています。特に、被災の影響を受けている人の方が少ないと思われまます。被災している人の生活状況を見ると、回復していない人が多く見られます。家を失い、住宅を借りて生活している方々も多くいます。その方々にどれだけの市・県・国の支援が送られているのでしょうか。また、職を失った人たちや会社の再建に立ち上がろうとする方々にどれだけの支援が行っているのでしょうか。こちらでは把握できませんが、話を聞く中では十分ではないと見受けられます。岩手県独自でも良いので、具体的対策をとられると良いかと思えます。例えば、時限立法で良いので、累進課税で復興税を徴収し、支援に充てるなど具体的数値のある取り組みが望ましいと考えます。絆を言葉だけで終わらせるのではなく、具体的に表したいです。岩手県の絆でしょうか。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	震災後、一旦急速に回復したように見えていたが、最近は停滞しているように感じます。がれき撤去はされたが、その先が全く変わらず、仮設の住民も先が見えず困惑している状態です。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	仮設住宅で生活されている方々は、やはり元々住んでいた場所で生活したいのではないかと感じます。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	一部には新たに住宅を建てるなど、動き出した方もいるが、あくまで一部で、多くの方は仮設住宅に住んでいるままだし、職を失った方は新たな仕事を探している状態のままである。勤務する小学校も、PTA授業参観自体は参加してくれるが、その後の懇談会の前に帰る方が多い。子どものことを親同士で話し合おうという余裕があまりないのかもしれない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	市の景観があまり変化していないから。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	変化なし
教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	仮設の生活は、だいぶ落ち着いてきているが、あくまで仮設であり、回復しているとは言えないと思う。	

あまり回復していない	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	仮設店舗による商店が増え、再建も少しずつ進んでいると思われる。しかし、それは津波の被害を受けない高台の場所であり、市の中心部だった場所はがれきが増えた、それを見るにつれ、町の中を見たくないという声が増えている。市町村によっても町づくりに差があるのでは。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	1、災害復旧工事が本格稼働したことによって、業種にもよるが事業所の復旧・再建が加速してきたように思える。 2、住居等が生活環境に改善がみられるが、3ヶ月前と比較してほとんど変化は見られない。 3、依然として、診療所の再建等医療・福祉施設での復旧再建に遅れがある。 徐々にではあるが回復の兆しは感じられる。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	前回記入と同じくです。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	平地が少ない土地柄住環境の再建はなかなか進んでいない。また、この地域の基幹となる産業基盤も未だ整備されていないように思う。よって雇用の創出もはかどっていない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	保護者の失業が解消されていません。 一時的雇用があっても長続きしない方もいます。 女性が近場で働くことのできる場（お弁当づくり、給食センターなど）があれば、母子家庭の児童の転校も少なくなると考えます。 震災前より児童が76名も減少し、2クラス減り、現在11学級です。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	新たな土地で再建できた方、予定を立てることができた方が1人2人と聞こえてくるが、あくまでもほんのひとにぎり。経済的にできる方、そうでない方の違いを感じる。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がれき処理の仕事を見つけたが雇用期間が2年。年齢も50才代なので、その後の生活設計が立たないと訴える人がいる。</li> <li>・仮設に入居しているが今後の行き先がまだ決まっていない。年金暮らしでは資金も乏しい。</li> <li>・余震が続き、津波への不安が消えていない。大雨による浸水、土砂崩れの報道が他人事ではない。</li> <li>・家がなくなってしまったためか、道を歩いている人をあまり見かけない。目につくところに被災したガソリンスタンドがあるが片付けもされずそのまま放置されている。近くを通るたび嫌な記憶がよみがえり、不愉快になる。</li> <li>・震災から1年が経ち、落ち着いたかにもえたが高齢者が亡くなるケースが増えているという話を耳にした。これも震災関連死なのか？</li> <li>・家の基礎がそのまま残っている。そのガレキをどのように処理するのか。</li> <li>・資金のある人は、安全な場所に家を建てているようだが、車もないし、資金もないので、遠くに行けない高齢者はとり残された気持ちになっている。</li> <li>・震災により寝たきりとなった。いち早く雇用促進住宅に入居できたが1階とはいえ階段が4段。高さにあうスロープがないか？間に合わせて使っている。玄関の出入りの楽な一般のアパートに移るにしても昨年6月とかに締め切っているので資金援助は全くないと言われた。今更仮設にも入れないとも言われた。どのように寝たきりを介護していけばいいのか。寝たきりの方は胃ろう造設している。同じ世帯に透析週3回通っている方がいるが膝が悪くスロープでも出入りが容易でない。一般のアパートや仮設の方がいいと介護者は泣きつかれ、途方にくれている。</li> </ul>

回復していない	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	仮設住宅の生活は落ち着いてきた様です。春と共に活気がついた。畑作業、日だまりでのお茶会等。なかなか見えない高台への集団移転が一番の関心事で不安要素であります。建設場所、資金、助成金等、どの方法が自分に合うのか？高齢でローンを組めるのか？憶測と又聞きで混乱している様です。表などを使って整理してほしい。学校建設の土地の造成でも始まれば少しは安心するのでは？
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	スーパーに行くと買物客で賑わっていますが倍セール、割引を利用するなど細かい事に気を使っています。笑顔で話はするけど、自分の家を持ってない不安を抱え心の中は皆真暗です。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	(1) 被災前は皆さん持ち家があったので、仮設に住んでいるので回復したと感じられないと思うが、何人かは自宅を新築して移っているのだから進んでいると思う。 (2) この間までは失業手当で生活していた人が、仕事を探して仕事に行く人が増えたので生活の回復はいくらか進んでいる人もいますが、まだ、仕事も出来ない人もいますので、まだどちらとも言えないと思う。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	被災者の皆さん仮設住宅の中で部屋より移動がなくて老人他ストレスが溜まって困っているというお話でした 仕事がないのが悩みだそうです。また新住宅へ進んでいる方がない。ストレスがなくなる法がないでしょうかね。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	(1) 以前と特に変わっていないように感じます。 (2) 宅地造成の準備は少しずつ進んでいるようですが、被災者の方々は家はどうでしょうか、今の土地はどうなるのか等、不安ばかりが募っているようです。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	仮設の人達との交流は、帰りが遅いためほとんどないので周りの方の生活はわからないことが多いが、少しずつ仮設を出ていく人も見られるようになった。他のところに住めるようになった人と、まだ見通しを持っていない人の格差が生じて来ている。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	・スクールバスでの登下校(始発、終着に1時間30分)や校庭が使えない等の学校環境、仮設住宅地周辺に限定された行動範囲など、子どもたちを取り巻く環境に変化なし。 ・住環境の再建状況の進み具合が分からず不安。 達成状況を広く周知してほしい。 (見通しが持てない中、イライラ感はあるばかり。 被災地復興に向けた“県”の強い決意をもっと感じたい。 我々の生活は本当に何も変わっていない。そのことを再度認識してほしい!!)
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	・仮設住宅での生活が慣れてきたとは言え、自然災害(大風や大雨)の度に怖い思いをしている。 ・海から離れ、山の奥に仮設住宅があるので、交通の便が悪く、買い物にも行くことができない人が多い。特に高齢者は自転車がないため家にいることが多いようだ。 ・将来どこに居を構えることができるのか、被災した自分の土地への補償はあるのか、不安なことが沢山あるので、とりあえず一日一日を生活している印象だ。
分からない	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	被災後に居住している。近所に被災した人は住んでいない。職場では、進捗状況は不明である。

分からない	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	被災の程度（住宅が流出した人、漁業で生計していた人、住宅・事業所両方失った人、事業所が流失し失職していた人等）によって回復の感じ方に違いがあるのではないのでしょうか。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	・3月17日八戸線の開通により、進んでいると感じました。近くに被災された方がいらっしやらないので分からないと答えました。テレビ等の特集をみるとまだまだと感じています。

## II 地域経済の回復に関する実感

地域経済の回復度及び3ヶ月間の進捗状況についての回答区分により、自由記載欄の記載内容を取りまとめると以下のとおりであった。

区分	職業・所属等	年齢別	地域	自由記載（理由）
回復した	教育・福祉施設関連	20歳代	沿岸北部	完全にとは言えないが、地域の産業、街並の復興は確実に進んでいると思う。
やや回復した	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	近くにある水産加工場（缶詰工場）は、最初は加工場は再開しないと従業員の人の話がありましたが、最近、加工場が再開して仕事ができるようになったの声を聞きました。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	どんどん新しくお店ができたり、被災した地域にあった建物を直してそこでまた仕事を再開し出しているのを感じれる。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	ワカメの価格が高値だったことは水産業にはとても良い事だと思います。しかしながら雇用の状況は一向に改善が見られていない様な気がして…。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	市町村でアイデアを出し、若い人達が仕事出来るよう考えてほしい。 高齢化が進み町にあまり元気が感じられない。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	漁業については、小型船の配備、漁業者用倉庫の建築が進み、磯漁は可能になったが、大型船の配備は全く見られず、家計を支える収入を得るには程遠い状況にある。 農業については、農地の整備が始まり、米作を再開した人もいるが、極めて少数、小規模である。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	水産業の回復は、ものすごいスピードで動いている。それに比べて、買付人や輸送体制の回復は遅れている。 税金の上がることから、先に回復させないとスピードが鈍くなる。 水産業につきこんだ税金は、税金としては絶対に戻らないのになぜ、大金をつぎ込むのか？
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	仮設ではあるが店舗が建ち始めたので少しは進んだのではないかと思う。 雇用に関しても震災直後に比べ不在がちな所が増えて来たため職を得た事による不在なのではないかと思う。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	仮設店舗などが開店した。

やや回復した	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用については、雇用対策事業の支援制度により回復してきていると感じられる。</li> <li>・水産業については、市場の整備等、基盤整備も進んでいるが、備品等、震災前と比べるとまだ十分ではない部分もあると感じられる。</li> <li>・農林業については放射能問題があり、再生までは個人差があるが、時間がかかると感じられる。</li> </ul>
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	仮設店舗ながらも、それなりに回復しているかと思うし、いろいろな支援等により新しい店舗が多く見受けられるので、それなりに進んでいるのではないのでしょうか？
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	回復はしてきていると思いますが、雇用面では期間雇用が多く、今後、本当に元通りの状態まで回復するまでどのくらいの期間がかかるか。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	商店街はやや進んできたように思うし活気も出たきた。商店街も以前より人の通りが多くなった感じがする。一方水産業、製造業が立ち直ってなく、40～50才台の人達の失業が多いと聞く。私も仮設住宅にいるが40～50才台の失業者がおり、大変そうである。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	商売を再開した一部の小売業、サービス業は、震災前まで回復または、それ以上の売上となっているそう。復興特需の業種に限っているように感じる。本来地元根付かなければいけない産業については、現在のどの程度回復しているのかわからない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産業については復旧は進んでいるが、漁港整備のインフラ整備を早急の実施すべき。</li> <li>・農業（水田）の被災田の地盤沈下や圃場の復旧はかなり遅れている。</li> <li>・漁業者は津波により多くの漁船を流失しており、新漁船の発注は昨年にしており、いまだ納船が遅れており、復旧作業に大きく支障をきたしている。</li> </ul>
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	<p>商店や事業所が増えている。</p> <p>ただ、農業関係の回復は全くと言っていいくらい回復していない。</p> <p>※3.11の津波で農機が全て流されてしまった。しかし、全く国の支援がない。</p> <p>漁業関係では、船舶の8/9が補助される。農業の関係も被災者に支援の手をさしのべてほしいね。</p> <p>お願いします。農業に希望を持たせて！</p>
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸北部	原木椎茸、畜産が地域経済にも少し影響していると思う。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急雇用の求人等も増え、一時期に比べ就職活動をしている人数も落ち着いたように感じる。ただし、あくまで一時的就労だと思うので今後まだまだ不安だと思う。</li> </ul>
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	<p>設備関係については補助金等により整備が進んでいるが水産加工業者等は長期間休業した関係で取引先が減り販路を再開拓するのにかなり苦労している状況。</p> <p>また、従業員確保についても苦労している。</p> <p>本当の意味の復興にはまだまだ時間がかかるものと思料。</p> <p>今こそ「公」の力が重要である。</p>
産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者の場合</li> </ul> <p>定置漁業は補助金支援が厚く復旧したが、個人の復旧が遅れている。個人にも平等に支援してほしい。</p>	

やや回復した	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	漁業をする人が少し増えた。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	養殖業（ワカメ）は、被災前と同じではないが、かなり回復し軌道に乗ったのではないかと思えるため。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災関連雇用により回復の兆しはあるが長期的経済の回復とは言えない。</li> <li>・漁業関係で放射能汚染に関し不安になっている事業者もあり、先行は不透明。</li> </ul>
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	養殖ワカメを60%ぐらいであるが、収穫することができた。しかし、港の整備がまだまだで、大変である。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水田が被災して昨年度は水稻の作付が出来ないことであつたが、災害復旧工事により今年度の作付が可能といえる。生業者は、期待していると思う。</li> <li>・地域経済は、震災当時よりは回復の兆しが見えるようであるが、まだまだである。</li> </ul>
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	（1）仮設店舗が少しずつではあるが増えてきているような感じがする。缶詰工場の建設が始まったりしているので地域経済が動き出しているように思う。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	（1）ワカメ養殖が共同作業、個人作業でやや元気が出てきたようです 日頃その他はまだ作業が見えない様子
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	水産関係の企業も再稼働に向けて動いている。工場を新築し既に稼働している企業もある。飲食店は活況。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	八戸線の開通
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	J R 八戸線、三陸鉄道の再開
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	水産業でも少しずつ収穫があつたり、水産加工工場も再建され、働く場は回復しつつあると思う。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	被災した商店や漁協等は、仮設店舗等により、営業再開ができています。漁もややとれているようなので、（ワカメ等）少し安心しています。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	被災前から人口流失（減少）は、続いているが被災による地域経済の回復とともに地域振興の打開策を講じる必要がある。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	漁港やそれに関連する施設が整備されてきた。通勤途中、整備（？）された船（船外機装着のもの）が陸に置かれているのを見かけるようになった。 以上のことから考えれば、「やや回復、やや進んだ」と回答したが、それに関わっている方の話を聞いたわけではないので、自分の実感として回答した。
教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	うにまつりの開催で活気づいてきた。 三陸鉄道の全面開通	

やや回復した	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業施設は、どんどん増えているように感じます。</li> <li>・介護施設では、今でも4人部屋を5人で使用しています。それを補うような介護職の人数もおらず、介護職の賃金が低すぎて辞めていく人が多数います。</li> </ul>
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	商業施設が新規で増えたり、仮設で営業を始めた店が増えてきたように思う。
どちらとも 言えない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	震災で廃業する会社が多いが、地元企業で募集する人材はほとんどが非正規社員なので、まだまだ、企業側でも、震災の影響で経済の回復はまだだと思う。個人商店は小さいが、仮設店舗を造り少しずつ経済回復を後押ししている。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	仮設住宅の場所での差がかなり大きいと思う。市内中心部に近い仮設では買い物、交通など便利で、人、金の動きがあると思う。反面、交通等不便な場所は、人の動きがない。部屋にこもっている人が多いと思う。被災者とそうでない人の差が大きい。仕事がある人とない人の差が大きい。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	水産関係の働場はまだまでである。冷蔵庫（水産加工）のパートさんが多かったが、その人達の働場が、緊急雇用でしのいでいる状態、ある程度の収入はあるので、生活に困るわけではないが、継続できるのか、全く見えない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	被災した方への新しい漁船が届いているのを見かけましたが、港の復旧が遅れていると思う。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	被害を受けた店舗などの修復はほぼ以前に近くなったが、日常の買物客は激減しているように思う。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産業がやや回復したと思う。</li> <li>・観光のホテルはまだ復旧していないので、観光客が前より少なく感じる。</li> </ul>
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	先日中古物件のお話があり、見に行ってきた。気に入ったので話を聞くと私は三番目で先人のキャンセル待ち・・・とか、一週間待って二番目の人が購入を決めたとの事、良いと思ったのは早めにね、買い手いっぱいだけど売が少なくて・・・と話していました。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	飲食街の復興が先行している。基幹産業の水産復興が緒に就いたばかり。福島原発爆発事故の放射能の風評被害の影響が、当地方にも徐々に押し寄せてきている。水産の風評被害はまだ起きていないが、農業にあつて、椎茸原木栽培や山菜等に影響が出ている。他県の自治体にガレキ処理を引き受けていただき感謝の限りであるが、誤った風評被害の影響で、反対派運動家が4月に来た。水産業が主幹産業であり、これの復興なくして復興はありえない。漁港整備が急務であり、これの復興工事が緒に就いたばかり。早急な漁港整備等、早期完工を強く望む。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸北部	目に見える物がない。

どちらとも 言えない	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水した水田等は除塩作業が始まり、今年の作付けに間に合う様進めている。</li> <li>・水産業に関しては小型漁船は整備されてきたが漁港施設の整備が進んでいない。</li> </ul>
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	農業で言うと機械をすべて流され、農業で生活を支える事が出来なくなり、金銭的に1からスタートするのは難しい。地域経済の回復には程遠い。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	一部では「忙しい」という声も聞きますが、全体的にはよく分かりません。 求人もこの3ヶ月は多かったように思いますが、経済が回復したかどうかはこれからではないでしょうか。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	業種によって進捗状況が異なっている。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	<p>1 第三次グループ補助金の決定以降、設備の改修、新設が活発化してきている。 当初は秋のサンマに合わせた水産加工業者の復旧工事が目立ったが、年明け以降は製造業だけでなく、サービス業の事業再開に向けた資金需要が出てきている。</p> <p>2 一方で、グループ補助金の認定から除外された企業の不満や制度への不平も多く、平成24年度のグループ補助金への再チャレンジの動きも目立つ。やはり、事業再開に向けては自力の資金調達だけでは負担も大きいので、補助金頼みと言える。</p> <p>3 補助金は事業の復旧に限定されているので、震災を機会に事業転換や拡張を目指す動きに水を差す。復旧に留まらず、復興を進めるためには制度の拡充が必要。</p>
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	目立って見えてないと思うので地域経済の回復度は、どちらとも言えない。
	教育・福祉施設関連	20歳代	沿岸南部	店舗は、徐々に再開されているが、水産業がどれだけ震災前の状態に近づいているかがなかなか分かりません。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	船がないため、共同の漁となるような方もいる。 そのため漁を断念するような方もある。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	スーパーや工場ができていますので少しは良くなってきているとは思いますが、地域経済が回復しているかはわかりません。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	産業種別で大きく異なると考え、③の回答にしました。被害の大きかった水産業や水産加工業の様子を見ると、従事される方々の努力によって回復は見られます。しかし、まだ震災前までの活気に戻るには時間がかかると思われます。資金面でも、すぐに使える支援策や返済の猶予を十分に考えた支援が充実することで回復は早まるのでしょうか、期待します。
教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	我が地区の水産業に関わっている人たちの頑張りが伝わってくる。環境の整備はまだまだなのかもしれないが、ワカメなどの生産に励んでいる姿が見える。 しかし、商業等の状況ははっきりしない。仮設での営業がどの程度なのか、離れた場所でもありよくわからない。この先、住民の生活再建する場所への移転が大分あとになるのかと思うと、事業の新たなスタートがどのようになっていくのか心配である。	

どちらとも言えない	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	被災前も当地域は経済状況は決していいとは思えないので比較はできない。 3ヶ月で言えば、漁業関係、建設業関係でやや回復感を感じる。
あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	国、県等の関連は確かに進んでいる様に思いますが、個人の事務所は進んでいないのが現状だと思います。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	以前にも記入したように全く進んでいないわけではないが、各人の努力によって前に進んでいるという印象を強く受けています。 以前のアンケート提出時と差はあまりありません。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	銀行が本格的に営業を始めたのは大きいと思います。今後更に個人商店が多く営業を再開して欲しいと思います。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	他県の人やボランティアがお金をおとすようだが、被災地ブームがいつ終わるかわからない。 事業者は将来不安だと思います。 経済は人が集まらなければ回復はしないと思います。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	海を去る漁業も多く、残る高齢者は負担も重くなり、元気を出そうにも大変だと感じている人が多いと思います。民間の力で漁村経済の活性化が出来ないだろうか。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	被災した田の土壌の入れ変えが進んでいるが、被災した農機具等の助成がどの程度なされているか見えない。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	仮設の店舗は増えてきているが、大きな組織等の発展が感じられない。 義援金が出ますと新聞等載っていたのに支払われていない。市の政策全然分からない。何をやるのも遅い。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	農林水産業は、少しずつながらも元に戻ろうかと頑張っています。ただ、水産加工業が廃業している所もあるため、まだ回復まで至っていないと感じます。水産加工業は地域の雇用を多く生む産業でもあるので、早い回復を願っています。飲食業や建設業は復興事業で多くの人が飲食店を訪れ、土木工事も多いですが、一時的なものだと皆不安がっています。よく「復興バブル」と言いますが、本来の地域経済の力がどのくらい回復しているのか、この復興バブルにより見えない気がします。これから新規で始める企業についても、緊急的なすぐ終わる補助金ではなく、基盤をしっかり造ることができる補助金を望みます。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	新しく店舗を構えようとしている企業に対して、なかなか補助金が出ない。300万の補助の制度はあるが、それでは十分ではないとの声が多い。 店舗を建てるのに、2~4千万はかかるのに300万の補助だけでは少なすぎると思う。もっと店を建てやすい環境を整備しなければ出店する業者は少なくなるのでは。
地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	仮設店舗等が次々と建てられて商店などが入って準備を始めたり、オープンしたりとしているが、被災前に比べるとほんの一部の商品である。 経済の回復は、仮設店舗が出来ても買物客がなかなか集まらず店も午前中で閉店したり、被災前の売り上げを取り戻すにはまだまだである。 飲食店やスーパー等の食品は、やや回復しているのではと思う。	

あまり回復していない	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	まだまだ将来の見通しがたたないでいる人がたくさんいます。自分も含めてです。不安の中でもとりあえず今出来ることを懸命にするだけです。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	商店の仮設店舗は、あくまでも仮の店であり、店として営むためには移転先に合わせた動きを取らざるを得ない。漁業に関しては、サップ船の供給はだいぶ進んできているが、浜の口開けで実感できるかどうか。今、田植えが盛んに行われている。しかし、収穫は秋であり、今年の収入の予測はできないと思われる。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	漁業も前回とあまり変化が無い。海中のガレキもまだまだあり、刺網等まだまだ安心して操業は出来ない様です。農業は自家消費の野菜作りが始まった程度。水産加工もまだ。林業の動きもなし。造船関係は良好な様だが増員の話は聞かない。数少ない商店の仮設店舗の工事もいっこうに進まない。小さな町は後まわしなのだろうか？だいぶ前から話はあったが進まない様だ。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	被災農地（水田）の区画は少しづつ出来てきましたが、半年もそのままより水を入れて塩害の対策をしては。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	湾内の養殖施設も整備され、生産体制は出来てきましたが、漁港の岸壁の整備の遅れを感じております。又、仮設店舗、水産加工場、事務所は建設が進み、地域経済は回復にむかっていると感じます。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	去年の春頃からの話の仮設店舗が今年三、四ヶ所に立ち五月に開店を果たした所もあり、前へ一歩進み始めました。随分長い事待ちました。待ち切れず、内陸に移り仕事をしている方々もいます。皆が力を出し合い助け合って作り上げた店舗です。長屋店舗が出来た事で商売だけでなく、皆が集う場所となり、お互い心のつながりが出来て、賑やかになりつつあります。回復とまでは行きませんが、自分達の仕事場が出来た事は、先も見え、皆で力を分ち合って行ければと思います。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	商店街は仮設店舗が建てられたものの、街中に家がなくなつたため買物をしている人、歩いている人も少なく、とても回復しているようには思えません。しかし、仮設店舗で再開できているだけでも回復なのかなあと思ったり…。漁業に関して言えば、漁船は少ないものの、それでもなんとか協同で作業し、復興へ向けて頑張っているが、震災前の1/4以下の収入ではとても回復しているという実感がない。漁業者に関しては個人で創業し、収入がある程度見込めるようにならない限り回復しているとは考えられない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	・船は少しづつ入ってきているが、岸壁のかさ上げが進まないため水揚げが出来ない。 ・加工場ができないため、売先に困っている。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	仮設店舗は少し増加しているが、まだほんの一部に過ぎない。あくまで仮設店舗です。水が入った店も少しだが開店してきているみたいです。山菜を青果市場に出荷したが、放射能のため例年の半値もしくはそれ以下の単価でした。

あまり回復していない	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基盤整備、復旧工事がまだ実行されておらず今後の事業再開の見通しが立たずあせるばかり。</li> <li>よって金融や制度のメニューばかり先行で示されても利用すらできない。</li> <li>今後数年掛かって「復旧」した基盤を集めて再開までこぎ付ける際、同じ様な支援制度が継続されていて本当に必要な人が利用出来るだけの「予算的なワク」が残されているか不安で、あせるばかりである。</li> <li>・ 「復旧、復興が人によっては貸しはがしにならないければ良いが…！？」</li> </ul>
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 仮設店舗等による飲食店・事務所を中心とした営業再開が増加しており、前回より1ランクアップさせた。</li> <li>(2) ①中小機構による仮設店舗の建設が急ピッチで進んでおり、飲食店・事務所を中心に営業再開先が増えている。</li> <li>②水産加工場向けの土地(県有地)が用意され、かさ上げが行われ、着工できる状態となっている。5月に着工する先が1つある。</li> </ul>
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水産加工業で震災前の状況に回復しているのは僅かである。ほとんどは工場新築、改装と併行して行っており、規模も縮小して生産、加工している。ただ、5月以降工場が完成するところも多く、今後回復に向かって行くと思うが、各社とも震災前の取引先を維持できるか心配しており、先行きが不透明である。</li> <li>・ 商店街等小規模事業者は、とりあえず仮設店舗で営業しているが、資金面、土地利用の問題等現状では再建のメドが立っていないところが多い。</li> <li>・ 製造業については、一部5月から工場再開予定である。</li> <li>・ 建設業および大型店(スーパー等)は復興需要により業況良好。</li> </ul> <p>以上のような状況であるが、全体としてはあまり回復していないと考えられる。</p>
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	被災した水産加工会社が全てではないが、何社か新工場を建設し再開している。また、それに伴って雇用も促進している。しかし、希望通りの従業員数が確保できず、ある企業では、機械を稼働できなくなっている。全体的に企業では、従業員の確保に苦労しているのが現状であるようです。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	3ヶ月前と何かが変わったという実感はない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	水産加工製造業の事業所再建が進んでいない。仮設商店街ができていますが公共機関のみ利用者は不便。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災した事業所が再開しているが、人員が不足している。(ハローワークに求人出しているが集まらない)</li> <li>・ 建設業は仕事があるが人手不足もあり、他県からの企業も入っている。</li> <li>・ 飲食店はお客さんが多くなっている様だ。</li> </ul>
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、災害復旧工事の本格稼働によって、地域経済に回復の兆しはあるが、住民の購買力にいま一步力がないため、全体の底上げとまでは至っていない。ただし、各種のイベント企画等で回復に向けての努力は見られる。</li> <li>2、もともとが地域経済が弱いところに震災の被害があったため、地域経済の復旧には時間がかかる。</li> </ol>

あまり回復していない	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	いまだにがれき撤去している状態（海など）でスタートラインにすらまだ立っていないように感じる。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	一時期事業所等の再開もよく聞かれたが、この頃は聞かれない。ガソリンの値上げ等円高による経済の影響が心配される。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	飲食業は増えていますが、中小企業が多く、町としての経済復興までには到っていません。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	地域の人との日常会話の中で、地域経済が回復してきたと感じる話題が少ないから。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	未だに失業のままの人が多くいる。パートに出られる人はまだよい方である。その中で地域経済の回復があるのかどうか不安である。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がれき処理の仕事は人手不足だが求人を出しても、人が集まらない。雇用期間も限られているためかもしれない。</li> <li>しかし、失業期間が長くなればなる程仕事に対する意欲が低下し体も動かなくなってしまう。</li> <li>・安心して働ける正規雇用の求人が少ない。</li> <li>・若者に限らず勤め始めても長続きしない。</li> </ul>
回復していない	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	仮設店舗等だんだん増えてきたが、地元の人の利用が多いとは思えない。私自身は、近隣の店か内陸へ出かけることが多いのですが、車を持っている方も同じだと思う。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	漁協、農協には制度面の支援があっても組合員にはその恩恵はまだない。一部組合員（養殖漁業を営んでいた）にだけ恩恵があり不公平感が充満している現状。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	前面の回答と同じ文面を書きます。私達の町は今回の災害において、地域行政、経済の8～9割を消滅してしまいました。基盤産業は漁業（水産業、加工業含む）ですが、漁業組合は破綻し、水産加工工場は2社（町としては大規模の工場）は隣接の市の方へ移設しており、大型店舗1社が国の第2次補正予算の補助を受け再生されましたが、生産なくして消費は成り立たないと思います。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	実感はゼロに近いです。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	<p>（1）商店など仮設で営業する所が増えたけど、全体として基盤整備の面でまだまだ回復していない。ガレキの作業のみの仕事しかない状態。</p> <p>（2）スーパーや商店のみで、第1次産業はいまだに進んでいない。大きな予算がついたとか、いろいろ言っても、いまだにできないのは？ どうしてなのか？ 一部のみ進んでいるけど全体にはまだまだだと思う。</p>
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制度面での支援策を知らない人が多い。</li> <li>・発信する側と受け入れる側とがアンバランス状態にあり、PRや周知に向けての努力が必要である。</li> <li>・仮設店舗工事の進捗が遅すぎる。</li> </ul>
産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	震災に対応した各種、貸出制度が示されているが、事業を続けることに不安感を覚える人も多く有効に活用されるところまでは行っていない。	

回復してない	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	(1) 仮設の店舗で営業を始めたところもありますが、お客さんが離れた仮設に住んでいるため、利用する人が少ないようです。 (2) あまり以前と変わりなく感じます。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	復旧工事関係で、旅館等はだいぶ泊まる人も多く、活気があるようだが、人通りは相変わらず多いとは言えず、あまり回復したとは思えない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	・漁港、岸壁の修復等、環境面の整備により、漁業者の仕事の幅も増える。拠点となりうるるところから整備を進める等、復興が少しでも見えるようになれば意欲も湧く。(3ヶ月前とあまり変わってない)
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	・主産業であった水産業がまだまだ回復できていない。育てる漁業には海の整備が必要だし、魚を獲るには船と猟師が必要だ。若者は遠方の建設業に流れていると聞く。働いてお金を稼ぐことができる地域にはなっていないのが実情だ。 ・商業施設が復活しても働く場所がなければお金を使えない。働き場所が欲しい。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	お店は増えてきている。しかし、被災前のように買い物に行く人は多くないと感じる。
分からない	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	農林水産業の早期再生については、少しずつ戻ってきているのかもと思う。実際に私の町のワカメ加工場も行いはじめた。しかし、放射能を考えると出荷できるか分からなかったりするようで…。私には、再生できているか？と問われると分からない。

### Ⅲ 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

災害に強い安全なまちづくり及び3ヶ月間の進捗状況についての回答区分により、自由記載欄の記載内容を取りまとめると以下のとおりであった。

区分	職業・所属等	年齢別	地域	自由記載(理由)
やや達成した	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	一番は住民の関心が高まったことが大きいと思います。被災地域にお住まいだった方々の意見を取り入れてまちづくり計画を進めています。そのため、市民一人一人の防災知識も高まっています。堤防等のハード面だけでは防ぐことができない自然災害の恐ろしさについても各地でフォーラム等が開催され再確認しているところです。これからもこうした意識の醸成をしていく必要を感じます。復興計画が策定され、これから動き始めます。災害に強いまちづくりを実感できるのはこれからと思います。
	産業・経済・雇用関連	30歳代	沿岸北部	壊れた防潮堤はまだ復旧していない所もありますが、漁港はだいぶ整備されました。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	復興計画も出、市独自の計画も出しているから。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	避難路の設置、避難経路の表示板等が新しく設置されていた。
どちらとも言えない	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸北部	周辺の整備等は進んでいると思うが「災害に強い町」となると以前と比べて何がどのように変わったのか、具体的に目に見える変化を感じるができない。

どちらとも 言えない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	堤防もできていない、雨が降ると冠水して道路の復旧が早期に望まれる。 震災の教訓を生かし、地震で津波注意報が出たら、すみやかに周りが避難する人が多い。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	・幸いにして、当町では、人命が失われることがなかった事から、此度の震災において、長年の安全なまちづくりの結果が、死亡者ゼロにつながったと感じている。 ・今後において、町民意識が変わる事はなく、むしろ一層の災害に強い安全なまちづくりが期待できる。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	防潮堤が破綻した現状でのハザードマップ作成や新たな第一避難場所の発表については把握している。防潮堤や新たな避難道路の整備工事は今後実施されること。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	住民が主体となつての取組みは活発になっていると感じる。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	移転地の決定も8割位は決定の方向にある様だ。具体的造成工事に入った訳ではなく、課題は今からが多くなってくると思う。自らの予算を含め、どうなるのか頭が痛くなると訴える人が多い。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	地元自治体で示した内容で進んでいる様であるが、いまだ実感が出ていない様である。今後、工事が進み、完成した場合には実感が出ると思います。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸北部	計画作成止まりで、住民とのコンセンサスを得るまでになっていない。達成感については、残念だがほとんどない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	防潮堤の安全確認、防潮林の植林などを行った上で、さらに具体的なセーフティーシステムが講じられることを望んでいる。 現状のまま、3.11と同規模の津波が来襲した場合、今のままだと前回以上の被害が生じるおそれがあることは明確。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	特に子供やお年寄りの避難や安否確認の方策は専門的な意見を聞く機会も少なく、個々の危機管理も薄れている様に感じる。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	・ガレキが山積みになっているのが現状で、防潮堤の整備が進んでいない。 ・震度3～4の地震が何度かあり、避難を心がけるようになったと思うが、安否確認の方法をもう一度真剣に考えるべきだと思う。
教育・福祉施設関連	60歳代	沿岸北部	・ガレキの撤去は進んでいる様に感じられる。 ・道路も以前より走りやすくなった。 ・堤防の補修も進んできている。	
あまり達成 していない	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	防潮堤の整備、避難方策の徹底については、いまだ十分とは言えないと感じています。
	地域団体・郵便局関連	20歳代	沿岸南部	・店をどんどん建ててはいるが、防潮堤や避難方策がまだできていない。 ・被災した土地もどうするのか、防潮堤を線路を上げるのか、道路を上げるのか、または、前の場所に高い防潮堤を作るのか決まっていない。早く作ってほしい。

あまり達成 していない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	備蓄基地につながっている海沿いの防潮堤が所々破壊され土のうが積んでありますが、その土のうも口が開いて土がこぼれたりしています。道路を挟んで片方が海、反対側の道路の脇には、まだ処理されていないガレキが山積みになっている現状。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	避難についての意識は高まりつつあると思う。ソフト面は進んでいるがハード面がこれからである。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	防潮堤等への工事の進み具合の遅さには若干の不安を感じる。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸北部	防潮堤等、壊れたままで、地震の度に「大丈夫だろうか」と、とても心配になっています。海岸沿いの道路を通るだけでも、何の安全策もされていなくビクビクしながら通っています。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	異常気象のせいか地震以外での災害が多いように感じる。最近では近くの仮設の屋根が飛ぶ等あったので台風の時期を前に対策を行った方がよいと思う。個人的なことではあるが緊急地震速報が出た際の防災無線の機械的な放送は緊張感がなく短調で不快に感じる。第一声だけでも生声にするなどして緊張感を持たせた方がよいと思う。このままではいつしか風化し、「またか」と思うようになると思う。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸北部	防潮堤の復旧が進んでいるように感じない。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	歩道整備がまだ。（通学路としての歩道を整備して欲しい）
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	こないだの（5月3日）大雨の時に、TVが映らなくなったり、下水道が機能しなくなったり、冠水して道路が通れなくなったりして、まだまだインフラの面で整備が進んでいないと思われる。仕方ないことかもしれないが…。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	ガレキの処理はかなり順調に進んでいるように思われるが、安全確保のための防潮堤等、ハードの面は全く着工のめどさえ無いように思う。ただし、診療所は現在建設中です。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	市が発行している公報等では進んでいるように見えるが、私達個人的には形が見えないと不安なのです。ガレキの片付けなどは他と比べれば割合に早いと思う。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	海側に防潮堤代わりにトンバックが重ねられているが、気休めにしかなっていない。これは止むを得ないと思う。ただ、心配なのは避難路がないことである。何か避難誘導するような標識が必要である。夜間、車は心配だと思う。
地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	以前住んでいた所は、後ろが海だった。安全性はあまり考えてなかった。新聞を見ると公園用地とか…今はそこへ帰る気はない。今から何年、何十年かかるかわからない。考えると生きてないような気がする。安全なまちづくりを見届けたいけど進み具合が遅い、と思う。達成度はあまり…。	

あまり達成していない	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	巨費を投じていた波浪防災の水門は工事半ばではあったが、正に無用の長物であった。 巨大震災後の防災基本計画が示されたが、着工はまだのようである。無用の長物にならないよう、復興工事を望むものである。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	高台移転を希望し、安心して生活出来る様にと考えています。復興計画の基本は示されましたが、地域の皆さんとは具体的な話し合いは進んでいません。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	町・県・国の垣根があるためスピード間は見受けられない。 県がイニシアチブをとって進めていくべきではないか。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	災害に対する意識は高くなったと思うが、時間が経つにつれ、これからのまちづくりや自分達の住みたい場所などについて多様な意見が出始めたようだ。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	・いまだに堤防の整備補修が行われていない。 ・沖の湾防を整備するよりも河川堤防のかさ上げ、住宅の高台移転を進めてもらいたい。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	まだまだ計画段階のようで、目に見えるものはないようですので、津波だけでなく、例えばこの間の大雨の時でも安心できるような対策が早急に必要ではないでしょうか。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	3ヶ月前と何かが変わったという実感はない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	防潮堤等の津波対策の建設は進んでいないように見える。確かに浸水地域の建物の解体は進んでいると思うが、まだ、具体的な方針（案）が出たばかりで目に見えた津波対策の建築物がない。よってまだ安全なまちづくりの実感はない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	(1)防潮堤の整備が前のように整備されていないので、漁師が作業へでかける時、海難事故、海におちたり波の流れがよくない非常に危険な状況です。いつ頃から工事が着手するのでしょうか 教えていただきたい。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	・いろいろ案がある様ですが、具体的な話がないので、浸水地域で家を建てられない方々は不安である ・土地の金額も早く決まってほしい。
達成していない	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸北部	・河川堤防の復旧工事は行なわれたが地盤沈下しているので堤防のかさ上げが必要と思われる。計画はあるようだがどの程度進んでいるのか進捗状況がわからない。 ・移転候補地についても浸水の可能性がある様だが、それに対する対策が明確になっていない。 ・防潮堤の高さは現状と発表されたが地盤沈下の分実質的には低下する事になる。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	防波堤着工の様子が見られないから。
達成していない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	防潮堤は壊れた状態のままで全く手付かずの状態。今津波がきたら村は全滅すると思われる。早急に安全なまちづくりを進めてほしい。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	(1) 防潮堤の整備は全く進んでいません。高潮の時には心配です。

達成していない	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸北部	道路等の工事が全く進んでいない。津波で壊れたままの所が多く、コンクリートが道バタにそのままの場所もある。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	防潮堤の整備はまだです。そういったレベルではないと思います。1つ良かったと思うのは、防災無線が再開した事ではないでしょうか。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	具体的には何も進んでいない様な気がします。災害に強いまちづくりを進めるよりも、自然災害を受け入れ、再建を諦めないまちづくりを進めるべきかと思います。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	正直まったく進んでいません。一年たっているのですが残念です。
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	ガレキが整理されてから、あまり変わっていない
	地域団体・郵便局関連	30歳代	沿岸南部	話し合いばかりでいまだに何も進んでいないと思う。所々で工事は行っているようだが、進んでいないように思える。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	1年過ぎたが何も変わらないのでは。元の地域に戻るのに、4年も5年もかかるような話がある。5年後、戻る人は何人いるのか。スピード感がほしい。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガレキの撤去のみ終了。</li> <li>・先日の大雨で道路に水が溜まり走行できず…。国道周りの排水施設のみドロの撤去はしたが、その先の排水施設のドロ上げ施設の復旧が進んでいない為、排水できず水が溜まっている。</li> </ul>
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	湾口防波堤の復旧が大事である。県や国の考えは震災前の場所に再建するのが前提であるが、沖に出して、釜石のような防波堤を造ればより災害に強い街になるのに、それができない。構造や高さも決まっていない現状では、震災前よりも危険である。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤の設備は全く進んでいないというか、手がついていない。防潮堤あつての前提の復興計画を進められないのでは。避難方策に関しては、ここ数年は誰から言われなくても、避難すると思う。予算が許すのであれば、防潮堤が前提の復興計画は危険であるので、やめた方がよい。
	地域団体・郵便局関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤（仮）があっても低いし同じ津波が来たら前以上の高い所までやってくるだろう。仮ではなく早く高い防潮堤を願う。町の中は（町並みはないが）安全にいれる所ではないと思う。
	地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	国道や県道の歩道等の修理等は、目にするが具体的な防潮堤や避難住宅、ビル等が出来てる訳でもなく、目の前が海であり、又、津波がきたらと思うと安全な町づくりが出来るとは全く思えない。目に見えて大きく何かが出来たとは見えない。
地域団体・郵便局関連	50歳代	沿岸南部	素案ができて間もない今の状態では、災害に強い安全なまちづくりには程遠いです。残った建物を壊すだけで手いっぱいの様です。道路を一部かさ上げた程度です。沿岸地域はまだです。	

達成していない	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸北部	集団移転先も決まっていない状況である。計画はできているものの、防災整備は進んでいない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	防潮堤の修理も進んでおらず、第二堤防の話もあるが、位置とかもまだ決っていない。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	3ヶ月前と同じ防潮堤のボーリングが所々見られる様です。高台移転も住人の意向重視を言えば形が良いが、国、県、市等の立場のちがい、担当分野の線引が強くはみ出ない様気づかい（カバイアイ）からかギクシャクして積極的な指導が少ないようだ。 湾口防波堤にしても現在のシュミレーションでの想定で良いのか？疑問がありそうだ。防災関係の大学の教授の話としてまた聞きでは、守れないのでは？との事。（複数のルートから聞こえてくる。）私自身も構造物の劣化等心配部分が多い。高台移転もお金をかけない様な既存の道路利用拡幅程度の考えで新しいコミュニティー作りに程遠い現実説明です。（市担当者）
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	国、県、市の方針と地域の考え、要望等の合意形成期間であり、達成度を話す時期ではないと考える。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	破壊された防潮堤は整備修理されておらず、その周囲はガレキ収集所となっておりますので再度の津波が到来した時には、遮る障害物が無いため、ガレキを飲み込んだまま、川上の仮設住宅まで津波が及ぶ可能性があります。防潮堤の整備は種々ある復興事業に先じて事業実施出来ないものでしょうか？
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	災害に強い街作り 私は家が3, 11で全部流れました。防潮堤も一部決壊し大変な災害でした。 現実に見ていたわけですが水門に大きな津波が当り跳返りそれに次の大きな波が当たり大きな水柱となりその場所が決壊した、100%とまでは思わないが大きな原因となった事は事実である。しかし、行政はこれを検討委員会の中でも認めようとし無い。しかも今度は大きな水門を作ると言う。 市民某会でも市民は反対であるにもかかわらず一方的に国が、県が決めた事で中止は出来ないと、事後承諾的な説明会となった。いったい民意とは何なのか？ このようなアンケートも虚しさを感じる。 教訓はどこに行ったのでしょうか！！
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	問3の設問は、安全なまちづくりの達成度及び進捗状況についてですが、「復興方針」「復興基本計画」「復興推進計画」と一連の計画が策定され今後も種々の計画が立案され実施に移されていくものと考えますが、その事を見て回答するものなのか、実際に計画が現実のものとして具体化されたものを見て回答するものなのか判断できないまま回答しております。
	地域団体・郵便局関連	60歳代	沿岸南部	・12.5mの防潮堤を計画しているが、市民の多くはコンクリート12.5mを希望している市民は少なく、投資額も莫大であり、現在ガレキの分別をしているが、処分に各自治体は苦慮しており、防潮堤整備案としてガレキを活かす「森の防波堤」が命を守るを提唱している案も早急に一考すべきと思う。

達成していない	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	防潮堤は必要と思います。 地形に沿うような方法 無理な方法で作っても自然は先に戻るか形が変わると思う。
	地域団体・郵便局関連	70歳代	沿岸南部	防潮堤はいまだ無の状態です。 町の進む道が分らず、皆不安の毎日です。 早く自分の家へ住みたいと考えているのは、町民全員の気持だと思います。 防潮堤、国道、JR線、等早急に手を付けてほしいです。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	防潮堤等の計画はあるようだが、具体的には全く見えず、特に県が担当する防潮堤については予定地の用地交渉すらされていない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	公共的な施設は進んでいると思うが、個人の家とか進んでいないので、あまり実感がわかりません。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	動きが遅い！！何をやるにも規制が多すぎて行政等の動き、遅々と進まない大胆な規制緩和が必要と思われる。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸北部	計画だけで何も進んでいない。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	堤防、防潮堤の整備が進んでいないため。岸壁のかさ上げも進んでいないため。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	防潮堤のかさ上げの話はあるが、進んでいない。 堤防は、壊れたまま、水門も不安がある。 避難路は道が悪く夜間の避難は大変。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	何も進んでいない。 防潮堤は手付かずだし、水門すら壊れたまま。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	(1) 土のうを積んだだけの仮堤防では津波1mですぐに壊れてしまう。もう少し津波の破壊力について地域住民に広報するべきだと思う。 (2) 震災から1年すぎて、意識の低下があると思う。まだ宮城県沖や十勝沖など津波に対してもっと警戒心と訓練が必要だと思う。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	復興計画が発表になっていないので進捗状況はあまり進んでいないと思われます。 町民にとって一番望んでいると思います。
	産業・経済・雇用関連	40歳代	沿岸南部	前回から改善はみられない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸北部	災害に強い安全なまちづくりは何も進んでいない。 道路かさ上げも、住民には伝わっていない。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	一部、事業着手された工事もあるが、被災時の状況からは進んでいない。
産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	1 市が復興まちづくりの青写真を示してはいるが、具体的な都市計画、道路整備、かさ上げの高さといった計画方針が示されていないことに市民の不満が高まっている。 2 復興計画との関連性も不明で、市民はあまり期待していない。他地区でメガソーラー計画が相次いで報道されているので、市民の間からは焦りも見られる。 3 湾口防波堤の整備が最も急がれる。現状のままで同程度の津波が再来した場合、都市機能は完全に失われる。	

達成していない	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	・ガレキを寄せただけで、何ひとつ進んでいない。目に見える形で進めて欲しい。それが地域へ夢と希望を与えることになるのでは？
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	住宅の高台移転希望の方々にとって、県や市から具体的方針が示されず、いまだに今後の見通しをつけられずにいる人達がかかりいるように見える。経済力のある人は自力で移転先を確保し、住宅建築を始めている。防災訓練ってやっているのだろうか。自分の住んでいる地域で、津波が来たらどこに逃げれば良いのかわからない。ただ高台を目指せば良いのか。震災で被災した人達とそうでない人達で得られる情報量に格差があるように思う。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	堤防等の整備が進んでいないので不安。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	都市計画が示され、住民説明会等も行われているが、具体的に実行されていくのはこれからである。現状をみると、被災土地で再建した人と、建物を取り壊している人とそれぞれであり、今後具体的に進めるうえで、住民の調整は難しいと思われる。いずれスピード感ある復旧・復興が望まれる。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	岸壁のかさ上げ工事はやっているが、沖防波堤の工事がまだなので、しけると船の係船場所がない。船を破損する恐れもあるので波がはいらないように沖防波堤の工事を早めに進めて欲しい。
	産業・経済・雇用関連	50歳代	沿岸南部	先日の大雨の際も、浸水した地域があり、土砂災害の危険も含んでいる。安全なまちづくりにはまだ遠い。
	産業・経済・雇用関連	60歳代	沿岸南部	被災地域を見ると空しさを感じる。水門建設について行政の説明不足。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	こわれた防潮堤は直っておらず、次の津波が来たら不安である。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	進捗が何もみられない。今住んでいる被災地域は3ヶ月前にくらべ変化がみられない。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	地盤が低下しており、大雨の際に浸水になった。防潮堤も整備されているので心配である。
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全く変化していない。</li> <li>・今回の津波ではかろうじて無事だったが、次に津波が来た場合は防潮堤もない現状では被害は免れないと毎日不安を感じながら生活している。</li> <li>・先日の大雨でいたる所が冠水し、孤立した地区があった。いつまでこんな生活が続くのかと思うと悲しくなる。</li> <li>・この環境が普通に思えてきている自分に怖さも感じている。</li> </ul>
	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	全く進んでいない。しかし、急いで進め、安易な物ができあがってはそれはそれで残念である。町民の意見はまとまらないと思う。強いリーダーシップで防災を進めてほしいです。

達成していない	教育・福祉施設関連	30歳代	沿岸南部	県も市も明確な安全対策（防潮堤、避難方策、防災関連）が示されていない。なかなか示すのは難しい状況はあるのだろうが、進んでいるのかどうかもわからない。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	机上では進んでいるかとは思いますが、ガレキはそのままに見え、防波堤もなく無防備な状態の中でプレハブ倉庫の設置が増加している。地盤沈下により浸水域が増えている事、住宅再建の時期が見えない事による人の移転が増加している。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	周囲を見るかぎりでは、あまり変わっていないように思います。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	港湾防波堤よりも防災意識の向上と避難経路、避難場所の確立を優先して欲しかった。人が自然の力を押さえ込むことは不可能だと思い知らされたはずなのに。（談合？と勘ぐってしまいます）特に海岸付近を通る時、地盤沈下のため海面が高く迫り、もし、また津波が来たらどこへ逃げようかと思いながら運転しています。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	安全なまちづくりというより、補修工事をしている様な感じを受けています。町を被災していない場所に移転するくらいのまちづくりを進めて欲しい。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	先日、大雨も降り学校裏山が崩壊しました。児童の危険を回避するために役場に土砂撤去や道路の閉鎖措置をお願いしましたが、復興で多忙とのことで7日経過し、工事が始まりました。流失した木は元の場所に戻すとのことで、えぐれている斜面下に置き、土砂のみ撤去するとのこと。山の持ち主に返す必要があるそうですが、再び崩落の恐れもあり、学校の裏山で教職員がそして子どもが通るという事への安全に配慮できる状態ではありません。
	教育・福祉施設関連	40歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いまだに具体的な災害避難路（幹線的な大きい路）等の写真すら示されておらず工事の予定さえも見えてない状況であり、相変わらず、警報、注意報の際、低い浸水地域を通過して仮設に帰る為に通らざるを得ないところも多々ある。</li> <li>・防災無線も全々聞こえない地域（震災後）も増えて数少ない残された消防団等、関係者だけではとても追いつかない状況にある。</li> <li>・縦貫道の工事進展に伴い上流では河川が流路からの氾濫、侵食が進み流域が震災前よりさらに危険性が伴う。</li> </ul>
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高台移転の話が進んでいるらしいが、まだ動き出したわけではなく、周りからはどうなっているのか見えにくい。</li> <li>・防潮堤の工事も途中で、高波が来たらどうしようと思う。道路を走っていてそう感じる。</li> </ul>
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸北部	災害に強い町作りのビジョンがより明確に住民に知らしめる必要があると思います。まず、最優先は何か。避難経路なのか、防潮堤かさ上げによる対策なのか。大津波が50年後に来襲すると考え対策するのか、明日来るものとして対策するのかで大きく異なると思います。ちなみに、我らの職場では、明日大津波が来るものとして対策を考えています。
教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	防潮堤の整備や道路の再舗装等、前よりは進んでいると思うが、全体としてはまだまだだと思っています。	

達成していない	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅の被害だけでなく、家族を失ったかどうかも復興感に大きく影響すると思われます。</li> <li>・身内が亡くなった場所を通る度、思い出して悲しい気持ちになる。</li> <li>・地盤沈下したため、出入りが制限されている。</li> <li>・津波により地形が変わってしまったが、そのままになっている。</li> </ul>
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	信号は増えてきたが、車の事故がまだ多い。大雨で被害があったように予測のできない災害もまだ多くある。堤防もまだ仮のままです土のうが積んであるだけでは、決して安全とは思えない。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	ガレキが山積みとなり、増えてきている。道路も冠水する。先日の大雨では普段冠水する場所に車が埋まっていました。通行止めになるところもありました。今、町の中を見るとつらくなります。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	ガレキは取り除かれてきた。次は壊れた橋や崩れた山の修復で毎日の通勤、通学に時間が大幅に増える。安全なまちづくりのためにはやむを得ないことなのだろうが…。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	・地盤沈下により、大雨による道路の冠水の頻度が増えた。また孤立するのではと不安。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流れた上に焼けてしまった街に残された家々の基礎部分がむき出し状態で、道路もはっきりしない。避難路が整備されていない。</li> <li>・大量のガレキを山にしているが、今後どのように処理していくのか。防潮堤の役割もあるのかないのかとにかく景観が悪い。</li> <li>・安全だと思って住んでいた住宅が、大雨浸水のために危険にさらされた。早期に住宅地を整備し、安全な生活を送ることができるようにしてほしい。（上・下水道等）</li> </ul>
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	まだまだ見えない。被災地区で残って生活している住民の方々が最近の大きな地震で我が地区に車で一時避難してきたことがあった。安全な場所への住民の移転を優先して欲しいが、やはり残された方々の住まいの安全（ハード面）も急ぐ必要があると思う。”かさ上げして元の場所に”と希望されている方もいると聞くが、危険区域をはっきりと線を引き、住まいを建てることをSTOPさせてはどうでしょう。
	教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	計画は示されたが、実施し、その姿が見えない限り進んだとは思えないから。
教育・福祉施設関連	50歳代	沿岸南部	まだまだ海辺にはガレキが山積みになっていて、高潮になれば道路は浸水し、通行止めになっている。3ヶ月前、全然変わってません。	

**【自由意見掲載上の注意】**

- ①記載内容については表現も含めて原文のまま掲載しています。  
（誤字、脱字は修正をしています。）